

ビタミンK製剤（ケーツーシロップ）の投与方法の変更について

ビタミンKは人の体内で出血を止める働きに関与している重要なビタミンです。血が血管の外に漏れだしたときに固まる作用を「血液の凝固能」といいます。ビタミンKが不足すると出血したときに血液が止まりにくくなります。

大人では通常の食事（例：納豆など）でビタミンKを摂取していますので、ビタミンKが不足して出血傾向になることはほとんどありません。

しかし生まれたばかりの赤ちゃんは、食事で摂取することができないので、ケーツーシロップというビタミンK製剤を飲ませています。これをビタミンKの予防的投与といいます。

母乳は栄養学的・免疫学的・母子との関係においてメリットはとても多いですが、ビタミンKが少ないことが分かっています。

母体が納豆や緑黄野菜をたくさん食べると母乳中ビタミンK含有が増加するので、積極的にこれらの食品を摂取することは勧められています。

今までは、生後哺乳確立時、退院時、生後一カ月健診の3回、予防投与をしていましたが、日本小児科学会から推奨されている（退院後も家で飲ませる）以下の方法に変わりました。

【投与方法】

1回目：生後、哺乳の確立を確かめ早期に飲ませます

2回目：退院する日に飲ませます

退院後：1週間に1回、自宅で飲ませてもらいます

10回分（3カ月）のケーツーシロップをお渡しします

（尚、一カ月健診時にもこちらで飲ませます）